

あなたを
支える

四日市のものづくり

～知ってる?コンビナートの話～

本市には臨海部の石油化学コンビナート、内陸部の半導体メモリー工場をはじめ、自動車、電気機械、食品など多様な企業があります。これらの企業が生み出す雇用や税収などにより地域経済が支えられ、全国屈指の「ものづくり産業」のまちの礎となっています。

赤と白の煙突や大きな工場などは視界には入るけれど、私たちの日常からは遠い場所かもしれません。しかし、その場所で作られたさまざまなモノは、意外と身近なところで、私たちの生活を支えています。

今回は、あなたを支える四日市コンビナートをご紹介します。

製造品出荷額等は 全国9位

本市には石油・化学、半導体メモリー、自動車、食品などさまざまな工場が集積しています。製造品出荷額等の市町村ランキングを見ても、3兆1,799億円で全国第9位(2014年)で、日本を代表する工業都市の一つとなっています。

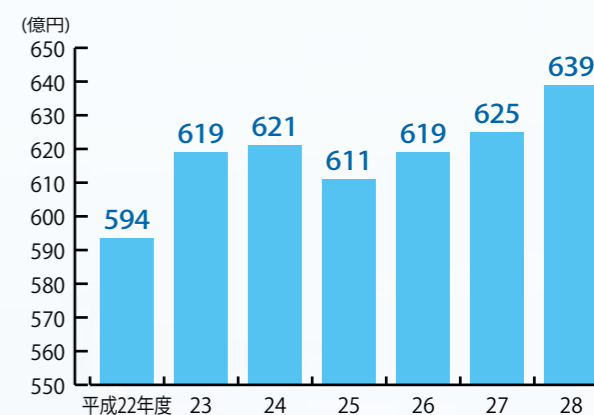
◆製造品出荷額等 市町村ランキング(2014年)

順位	市町村	人口	製造品出荷額等
1位	豊田市(愛知県)	42万人	13兆84億円
2位	市原市(千葉県)	27万人	5兆3372億円
3位	倉敷市(岡山県)	48万人	4兆6592億円
4位	川崎市(神奈川県)	150万人	4兆5484億円
5位	横浜市(神奈川県)	373万人	4兆3329億円
6位	堺市(大阪府)	83万人	3兆8212億円
7位	大阪市(大阪府)	271万人	3兆6348億円
8位	名古屋市(愛知県)	231万人	3兆5493億円
9位	四日市市(三重県)	31万人	3兆1799億円
10位	大分市(大分県)	47万人	3兆1165億円

平成28年度市税収入は 14億円増

工業の振興は、税収や雇用の確保に大きく貢献しています。平成28年度は、企業の活発な設備投資などによる固定資産税の増などから、市税収入は全体で14億円の増となりました。

◆市税収入の推移



よっかいち

ものづくり

YOKKAICHI MANUFACTURING

ちゃんねる
連動



今回の特集の内容は、市政情報等提供番組「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

- 地デジ12ch(CTY)
- 1月21日(日)～31日(水)に放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30



暮らしを支える四日市

私たちの何気ない暮らしの中にも、実は四日市コンビナート生まれ、「メイド・イン・四日市」の製品がたくさんあります。普段は意識しないかもしれない、先端テクノロジーが結集して生み出された身近な製品たち。あなたの暮らしを支える製品を、いくつかご紹介します。

あなたが普段口にするものや…



食卓でおなじみの風味調味料



肝臓薬、降圧剤などの医薬品



低カロリー甘味料



あなたが普段使うものや…

ガソリンや灯油などの石油製品



スマートフォンなどのタッチパネル用フィルム



タイヤなど用途に合わせた各種合成ゴム



コンビナート

気付きにくいけれど、あなたの身の回りにも、きっとあります

除草剤、殺虫剤などの農薬

紙おむつの吸収剤として用いられる高吸水性樹脂

水道管や建材などに使われる塩化ビニール樹脂

自動車や建物などに塗られる塗料やインキの原料(酸化チタン、酢酸ブチルなど)

リチウムイオン電池の電解液

全部は挙げきれないけど、他にもたくさんあるよん!

KIEP'S

企業が協力し、環境保全の取り組み

KIEP'S(霞ヶ浦地区環境行動推進協議会)は霞ヶ浦地区に立地する企業などから構成されています。資本関係に関わらない多種多様な企業が連携して、地域の良好な環境を形成することを目的に、海岸清掃や里山保全などの環境ボランティア活動、エコ通勤・ライトダウンなどの活動を行っています。

温室効果ガスの削減を目指す「エコ通勤」。霞ヶ浦地区周辺の幹線道路の渋滞緩和にもつながります。

知ってる?

コンビナートの豆知識

知っているようで意外と知らないかもしれない、コンビナートにまつわる話を紹介します。ちょっと詳しくなって、「知ってる?」と周囲の人に話してみてください。

四日市に「世界一高い煙突」があった?



石原産業が1940年に完成させた大煙突の高さは185m。当時としては世界一の高さを誇りました。1959年8月に解体されましたが、その姿は今も地元住民の記憶の中にあることでしょう。

煙突から火が出る!危ないんじゃない?



これは「フレアスタック」といって、生産過程で生じる不要なガスを燃焼させる装置です。不要なガスが設備内に溜まると、温度や圧力が上昇し、大きな事故につながる恐れがあります。このフレアスタックは「安全装置」として、なくてはならない存在なのです。

企業活動を応援します

四日市市企業OB人材センター
東新町26-32 TEL:330-5001 FAX:330-5002

四日市市企業OB人材センターは平成29年4月に橋北交流会館3階にオープンし、企業退職者が中小製造事業者を支援する活動拠点として、相談業務を行うほか、ものづくりの楽しさを伝える講座も行っています。

相談業務

貴重な経験やノウハウを有する企業OBが中小・ベンチャー企業の皆さんの事業活動のご相談に丁寧にお応えします。

ものづくり講座

長年ものづくりに携わってきた企業OBが、市内の小・中学生にもものづくりの楽しさを教える講座を開催しています。講座では、実験を行うほか、四日市のもので紹介する内容になっています。ぜひ、一度受講してみてください。

企業OB人材センター
HP
<http://yokkaichi-obcenter.jp/>



企業OB人材センター長 山本良也



参加者募集

小・中学生 ものづくり講座

- 対 市内に在住する小・中学生
 - 時 原則、毎月第2土曜日
 - 内 1月「もしも「まさつ」がなかったら?」、2月「次世代自動車の仕組みと工作」
- 詳しくは、広報よっかいちや企業OB人材センターホームページなどでお知らせします。



BANKO

300th



四日市萬古焼マスコットキャラクター
ポッターくん



本市の代表的な地場産業であり、国の伝統的工芸品にも指定されている「四日市萬古焼」。紫泥の急須や、耐熱性の特長を生かした土鍋などが有名です。

萬古焼の始まりは、室町時代までさかのぼります。楽市楽座の自由商業都市として栄えた桑名の有力な廻船問屋「沼波家」は、陶器専門の問屋で、当時茶碗として有名だった伊勢天目を取り扱っていました。その沼波家が江戸時代に作り始めた陶器が、萬古焼です。

屋号の萬古屋から命名した「萬古」「萬古不易」の名は、「いつの世までも栄える優れた焼き物」という意味であり、伝統は現在に受け継がれています。

萬古焼の父 沼波弄山 (ぬなみろうざん)

萬古焼の創始者として知られる陶芸家で、本名は「五左衛門重長」といいます。

桑名・船馬町の商家に生まれ、幼いころから茶道に親しみました。20歳のころ、現在の三重郡朝日町に窯を開き、陶芸を始めます。彼の作品は次第に有名となり、宝暦年間(1751年-1764年)に、江戸小梅村(現東京都墨田区)に窯を開きました。

彼が作品に「萬古」あるいは「萬古不易」と印を押したことより、萬古焼と呼ばれるようになりました。



沼波弄山翁 生誕300年-BANKO300th

平成30年は、萬古焼の創始者である沼波弄山翁の生誕300年という記念すべき年です。これを機に、四日市萬古焼産地では、萬古焼の伝統と文化を伝え続けてきた先人たちの偉業と努力に感謝し、「BANKO300th」を掲げ、さまざまな事業に取り組んでいきます。そして、事業を通して、萬古焼の遺産を未来への資産として、400年、500年とつなげていくことを目指します。

これらを実現するためにBANKO archive design museum主宰者・陶芸家の内田鋼一さんを総合プロデューサーに迎えて「BANKO300th」実行委員会を立ち上げました。自由で斬新な発想のもと、三重県内の人はもちろん、県外、海外の人にも萬古焼が身近なものになるように、活動を進めています。



公式ロゴマークの募集にたくさんのご応募をいただき、厳正なる選考の結果、上のロゴに決定しました。のぼりやTシャツなど、さまざまなところで活用する予定です。



BANKO300th キックオフ式典であいさつする森市長

市制120周年と合わせて、BANKO300th、共に頑張っていきましょう!

BANKO300thプロジェクト

- ① 記念誌の発行 過去から現在の萬古焼をより深く知ってもらう記念誌を発行します
- ② 魅力展示 萬古焼製品を通して、知られざる魅力を発信する展示会を行います。
- ③ ふれあい事業 萬古焼でつながる地域(桑名市、朝日町、菰野町、四日市市)や来訪者との交流を目的に、各地の資源を巡るツアーを開催します。

詳細は決まり次第、BANKO300th特設ホームページなどで紹介します。



BANKO300thプロジェクト実行委員に聞く

四日市萬古焼300年に向けて

近隣の人たちにも再度「四日市萬古焼」を知ってもらおうとプロジェクトを進めており、作り手の誇りを取り戻すいい機会にもなっています。この事業が打ち上げ花火のような一過性のもので終わるのではなく、その後も続けて萬古焼を盛り上げていくためには、来て、見て、触れてもらう産業観光が大事だと考えています。

「産地」であることを大事にしたい

作り手や市民が一体となって産地が衰退しないように守っていく必要があると思います。「身の回りに萬古焼がある」という産地としての当たり前を大事にしつつ、「その当たり前があるのは産地だからである」という根底は忘れずにいたいですね。皆さんが住んでいることを自慢できるまちなにするために、自慢できる産地にしていかなければと気を引き締めています。新しい当たり前も作りながら、萬古焼を400年、500年と続けていきたいですね。



BANKO300th実行委員会
ふれあい事業
ワーキンググループリーダー
山口典宏 さん

編集後記

ものづくりと聞くと、「職人の手作り」というようなイメージも浮かびますが、工場での生産もものづくりなのだと感じました。本市は、そのどちらをも有している、まさに「ものづくりのまち」です。皆さんの身の回りにも、きっと四日市で作られたものがたくさんありますよ。(商工課 山口、広報広聴課 服部)

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 商工課 ☎ 354-8178 FAX 354-8307
広報広聴課 ☎ 354-8244 FAX 354-3974